

(2) 調査遺跡の概要

山形城三の丸跡

遺跡番号 中世城館遺跡番号 201-002
調査回数 第7次
所在地 山形市春日町
北緯・東経 北緯38度15分11秒・東経140度19分10秒
調査委託者 山形県村山総合支庁
調査原因 都市内街路ネットワーク整備事業3・4・25号東原村木沢線（春日町）
調査面積 220平方メートル
現地調査 平成21年5月14日～6月25日
調査担当者 庄司隆志（調査主任）・安部将平
調査協力 山形市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別 城館跡
時代 古代・中世・近世
遺構 溝跡・土坑・堀跡
遺物 土師器・須恵器・中近世陶磁器・近現代陶磁器・瓦・木製品・石器
（文化財認定箱数：15箱）



調査の概要

山形城三の丸跡は、山形城（本丸・二の丸）を取り囲む、東西約1,600m、南北約2,000mの広大な遺跡である。

平成19年8月に、県教育委員会によって山形市春日町地内で試掘調査が行われ、その地点は山形城三の丸の土塁・堀跡、三の丸内部と確認された。これを受け、山形県村山総合支庁建設部都市計画課、県教育委員会などによって協議が進められ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが、道路の拡幅部分について、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。

今回の調査区東側の山形市城南町地内では、県道整備に先立って、山形城三の丸跡第1～3次調査（平成14～16年度）が行われた。その西側の延長部分にあたるのが、春日町地内の調査区である。春日町では、第5次調査（平成20年度）に引き続き発掘調査で、平成21年度は、第7次調査として約220㎡を調査した。

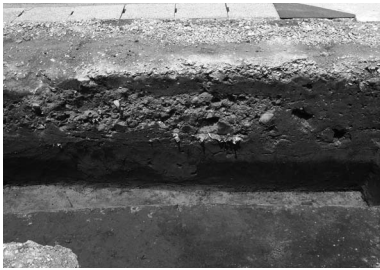
調査区を4か所に分割して発掘調査を進め、5月中旬から6月下旬までに、市道の下を含む県道南側の残されていた区域である10～13区の調査を行なった。

位置と環境

調査した場所は、山形市の中心部にある霞城公園（国指定史跡山形城跡の本丸・二の丸）から見て南西方向に位置し、三の丸の11の出入口の一つである飯塚口の近くで、JR山形駅からは北西へ900mのところにあたる。調査区の標高は約123.5mである。

山形城は、14世紀後半に斯波兼頼が築いたといわれ、文禄・慶長年間（1592～1615年）、最上義光によって、本丸・二の丸・三の丸と三重の堀を構えた城郭・城下町が建設された。義光の時代は、飯塚口の近くに、山野辺右衛門大輔（義忠。義光の四男）が配置された。

その後、この辺りは屋敷地から田畑に変わり、明治以降も、昭和30年代までは、農地として利用されていた。



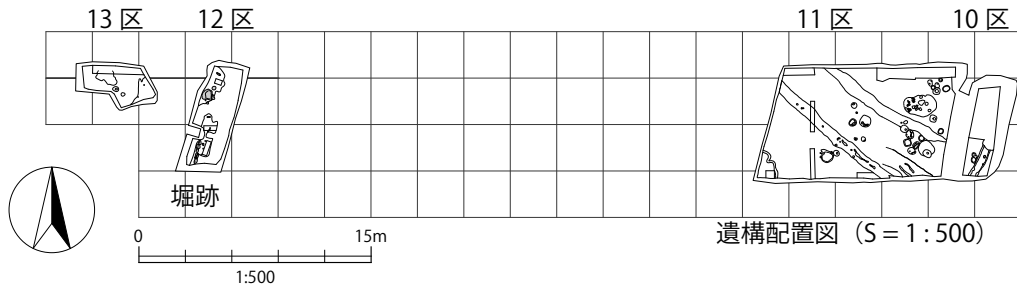
13区 土層断面（南から）



10区 完掘状況（西から）



10区 遺構検出状況（東から）



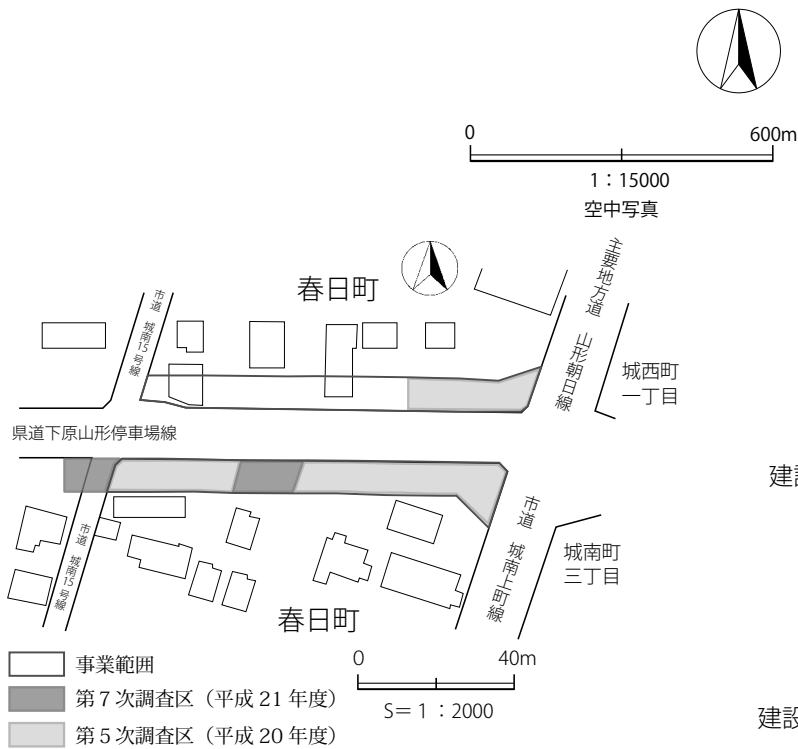
12区 遺構検出状況（南南西から）



11区 完掘状況（西から）



11区 遺構検出状況（東から）



調査概要図



1956 (昭和 31) 年 5 月 8 日
米極東空軍撮影 M681-97



1965 (昭和 40) 年 6 月 22 日
建設省国土地理院撮影 MTO-65-04-007-8



1980 (昭和 55) 年 5 月 29 日
建設省国土地理院撮影 MTO-80-04-012-11

空中写真に見る調査区（春日町）付近の変遷

昭和 30 年代後半に道路が整備された後、昭和 40 年代（1965 ～ 1974 年）以降、春日町を含む周辺地域では、区画整理・宅地化が進行した。現在は、山形市の市街地中心部と市の西部を東西に連絡する県道に沿った、住宅が密集する市街地となっている。

各調査区の遺構

今回の調査で見つかった遺構は、溝跡、土坑などで、調査区全体での遺構総数は、約 40 基であった。

今年度の調査の主な目的は、平成 20 年度の調査で検出された三の丸堀跡の、西の岸の部分を確認することであった。このため、堀跡の一部がかかると推定される道路の地下部分について、関係機関で届出・申請等の諸手続きをとり、安全に配慮した上で、調査を進めた。

10区 約 2m の間隔で、1 列に 3 基並ぶ柱穴と考えられる遺構から、建物跡の存在が想定されたが、ほかの柱穴跡が確認されず、詳細は不明である。11 区に続く溝跡も確認された。

11区 この調査区の南西部で、現在の地表面から約 60cm のところから黒色の土が良好な状態で残っているのが確認された。そこからは、土師器、須恵器などが出土した。また、この黒色土の北側に沿って、南東から北西の方向へ延びる溝跡が見つかり、その溝の北側には、砂の堆積層が確認された。砂は、江戸時代初めに山形城が築かれる前に、馬見ヶ崎川の洪水によって流れてきたものと考えられる。黒色土と砂の層の箇所は、城絵図や 1888（明治 21）年の地籍図（旧公図）から、三の丸の土塁の東辺部と考えられ、土塁が築かれた際の盛り土によって、古代の土層・遺物、砂の層が保護されたと考えられる。また、近代以降の土塁の取り崩しや土木・建築

工事、耕作の大きな影響を受けなかったことも、古代の土や遺物、生活面が現代まで残存していた一因と考えられる。

12区 この調査区は、堀跡（昨年度の調査で確認）の西側に隣接する区域で、市道城南 15 号線の部分である。道路の地下部分は、過去の水道管などの埋設工事に伴って改変を受けていた。約 80cm 掘り下げたところで、南北方向に並ぶ石・杭の列が見つかったが、これは埋設工事によるもので直接堀に関係するものではないと考えられる。ただし、市道の部分について、地籍図や 1956（昭和 31）年の都市計画図と、現在の地図とを重ね合わせて検討すると、その箇所は、かつての堀沿いの道のすぐ東側であることから、調査区における三の丸の堀の西岸は、市道の部分にあたると判断される。工事の影響を比較的受けずに残っている土の理化学的分析をしたが、年代が古く、堀の埋め土ではないとの結果であった。

13区 この調査区は、市道の西側に隣接する区域である。掘削して調査したところ、堀の西側の立ち上がり部分を土層の断面からは確認できなかった。よって、市道の西側の区域は、堀の外側（三の丸の外）であると判断される。また、調査区北側の土層断面に、人の手が加わって掘られた溝跡（地表から 70 ～ 100cm 下）が確認できた。その上には、今から約 40 数年前（1965 年前後）の生活廃棄品を含む、溝の埋め土の層があった。溝跡が確認された箇所と、1956 年の都市計画図とを重ね合わせて比較すると、そこは以前、飯塚方面に流れる水路（溝跡）であったことが確認される。このことから、検出された溝跡は、この辺りが区画整理・宅地化のために整地される過程で埋め立てられたと考えられる。

11 区の黒色土から
出土した遺物の状況



石匙



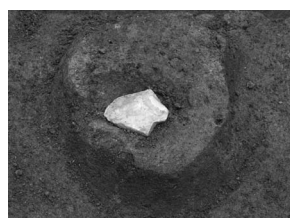
須恵器



須恵器（甕）



須恵器



土師器



土師器



須恵器

遺物

今回の調査では、土師器・須恵器・瓦・中近世陶磁器・近現代陶磁器・木製品などが出土した。

土師器や須恵器は、11区の黒色の土から出土した。遺物の特徴から、古代のものと判断される。また、その土の層からは、石器の一種である石匙も出土した。

瓦は、12区・13区から近世・近代のものが出土した。瓦の色調でみると、黒瓦より赤瓦の方が数量は多い。種類は丸瓦・軒丸瓦・平瓦・軒平瓦・熨斗瓦・棧瓦などである。遺構からの瓦の出土ではなく、表土掘削や遺構検出作業で見つかったため、瓦の使用年代は不明である。

陶器や磁器の破片は、12区・13区から多数出土した。中世末から近世初頭（16世紀末～17世紀初め、1600年前後）の肥前陶器も出土したが、飯碗、湯呑茶碗、皿、鉢などほとんどが近現代の日常生活で用いられた食器である。陶磁器の出土状況から、壊れたものが廃棄されたと考えられる。軍用食器も出土したが、この背景には、調査区の近くに軍関係施設が存在した（山形市には、かつて霞城公園内に旧陸軍歩兵三十二連隊が置かれ、現在の城南町に練兵場があった）ことをあげることができよう。

木製品は、春日町地内の調査区では堀跡から多く出土する傾向がある。12区も堀跡にかかる場所であったが、比較的遺物が多く出土する堀の底部ではないこと、過去の工事の影響で堀の埋め土の残存状況がよくなかったこ

とから、今年度の木製品の出土数は極めて少なかった。

まとめ

今回の調査によって、三の丸の堀の西岸は、市道の部分にあたることが確認された。また、調査区の一部からは古代の遺物も出土した。出土品や、埋め土の状況、各調査区の遺構のあり方などの調査成果は、堀が埋められた経緯や時期、堀に近接する三の丸の様子を、今後検証し、明らかにしていくための貴重な資料である。

調査区における堀の箇所の土地利用は、堀から農地、農地から宅地・道路へと移り変わってきた。近代以降、堀は埋め立てられ農地になったが、堀の西側沿いにあった道は残った。現代（昭和30～40年代）の区画整理・宅地化の過程で、堀跡部分の東側は宅地になり、その西側は市道として利用され、道路の地下には水道や下水道、ガス管など社会生活の基盤となるものが埋設された。堀沿いの道も区画整理の対象となりそのままの形状で残らなかったが、その道のすぐ東側に並行する形で、かつての堀の部分に現在の市道が整備された。

近世に造られた三の丸の堀は、近代以降に堀の役割を終えて埋め立てられ、現在は、その形跡は残っていない。発掘調査などの成果をもとにして、堀の築造から埋め立てまでの経緯をたどることで、山形城の歴史遺産が、現代の都市計画やまちづくりに連綿とつながっていることを窺うことができる。



10区 調査状況（東から）



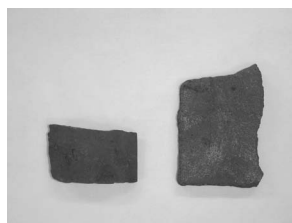
11区 遺構検出作業（東から）



11区 調査状況（北西から）



12区 市道部分の調査状況（南南西から）



12区からの出土遺物
丸瓦、平瓦



13区からの出土遺物
磁器（徳利）、漆器（椀の蓋）